

別表第1 研究科専攻の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的

(1) 理工学研究科

<p>研究科</p>	<p>修士課程（物質理学専攻および物理工学専攻）および博士課程（物質理工学専攻）を有する大学院理工学研究科は、開学の教育理念たる「和」の精神に基づく全人教育を根本に据え、学士課程の専門分野で培った力を発展させ、より深い知識と技術、さらに優れた研究開発能力を身につけ、理学と薬学さらに工学を統合した科学技術による先端的分野の開拓に挑戦できる、時代と地域社会の要請に対応しうる研究者・技術者を養成することを目的とする。</p> <p>わが国はこれまでに先端的な基礎科学と応用技術を生み出し社会に貢献してきた。今後一層の技術革新が望まれるなか、本学の学士教育では基礎力の充実に重点をおいてきたが、研究開発の現場ではより深い学識と創造力・研究開発力をそなえた研究者・技術者が必要とされてきている。大学院修了者の活躍こそが、今後の技術革新に不可欠な要素である。さらに最近の先端研究は、異分野間の未踏の境界領域に設定されることが多く、理学と薬学さらに工学それぞれが、これまで以上に融合し進展した科学技術を必要としている。本理工学研究科ではこれに応えるべく、修士課程に理学・薬学系の「物質理学専攻」と工学系の「物理工学専攻」の2専攻を設けている。</p> <p>本理工学研究科には、修士課程の物質理学専攻と物理工学専攻の2専攻の上に博士課程の「物質理工学専攻」を置いている。修士課程における理学・薬学系の物質理学専攻と工学的系の物理工学専攻の目的と志向を博士課程においてはさらに強く求め、理学・薬学と工学が融合した研究を期している。理学的研究は、本来真理の探究という動機に基づくものであるが、本学の博士課程では、これによって得たものを自然科学の発展と人類の進歩に還元しようとするもうひとつの目的を重要視して理学・薬学さらに工学が融合した専攻としている。</p>	
<p>専攻</p>	<p>物質理学専攻 (修士課程)</p>	<p>物質理学専攻は、生命科学と薬学を基盤として、環境生物学から動物行動、さらに創薬を目指した分子計測と設計、薬理、化学療法まで、幅広い分野についての基礎を身につけながら、物質の分子レベルでの構造と機能に関する深い知識と研究能力を備えた研究者・技術者を養成することを目的とする。</p> <p>物質理学専攻の研究領域は、分析化学から生命科学、動植物学、さらに薬理、療法まで多岐にわたるが、生命科学と薬学の視点から、地球上に生きる生物や植物の生態から生命活動に関わる因子の機能と作用、さらにそれらの分子レベルでの制御メカニズムを探求する。</p>
	<p>物理工学専攻 (修士課程)</p>	<p>今日、ハード、ソフトウェア両面での、電子工業、機械工業の進歩は著しく、その影響は産業構造の質的な変革にまで及びつつある。この変革のための自主技術の開発は、わが国をめぐる厳しい国際環境の中でますます求められている。物理工学専攻は、電子情報科学、電子工学、および機械工学の学士課程での基礎教育のもとに、より高度な理論と応用の手法を修得させ、基礎と応用の織りなす多面的な研究に接することを通して、高度情報化社会に不可欠なエレクトロニクス、情報、生産、エネルギー技術の発展に貢献しうる、確かな基礎力と幅広い応用力を持つ研究者・技術者を養成することを目的とする。</p> <p>物理工学専攻の研究領域は、電子・機械分野での新素材開発や評価、コンピュータサイエンスを機軸とした先進的な画像処理などがあり、先端技術に係わる研究課題に積極的に取り組む。</p>

	物質理工学専攻 (博士課程)	<p>博士課程物質理工学専攻では、物質の基礎と応用に立脚した教育・研究を行う。理学・薬学と工学の融合を重要視し、工学的素養を持った理学色の強い研究者、理学および薬学的素養を持った工学色の強い研究者の養成を目的とし、確かな技術力と豊かな創造性を兼ね備え、学術探求と社会の発展に貢献できる研究者および高度専門的技術者を育成することを目的とする。</p> <p>博士課程では、設定された研究課題について指導教員および研究関連教員のセミナーや研究会、さらに学会活動へ積極的に参画しながら研究課題の推進に専念する。</p>
--	-------------------	--

(2) 人文学研究科

研究科	<p>修士課程（日本文学専攻、英米文学専攻、社会学専攻および臨床心理学専攻）および博士課程（日本文学専攻）を有する大学院人文学研究科は、開学の教育理念たる「和」の精神に基づく全人教育を根本に据え、学士課程での専門教育を基盤としつつ、より高度な学術の理論および応用の方法を修得させ、地域社会はもとより、世界の平和と文化の進展に貢献できる研究者、および高度な専門的職業人を養成することを目的とする。より具体的には、人文科学に共通する人間の思想や感情につき、その背景となる社会現象や、文化全般にわたる理解を深めさせ、現代日本の進展に寄与することを使命とする。</p>	
専攻	日本文学専攻 (修士課程)	<p>学士課程における学修と研究の基盤の上に、より専門的であるとともに、基礎的な面の教育にも配慮しつつ、日本文学を研究することを目的とする。科目を「特殊講義」「特殊研究」「演習」の三種に大別し、この科目名のもとに、古代文学、中世文学、近代文学、和歌文学、日本語学、漢文学の講義と演習を配置する。特殊講義と特殊研究は隔年開講を原則とする。教授者は専任の教授者の他に、学外からも専門性に優れた教授を招き、講義内容の充実に努める。</p> <p>学生にとって重要なことは、より専門性を高め、あわせて基礎力を高めることである。このために授業科目は論文指導教授の指導のもとに選択する。また演習については、論文指導教授の担当する演習を選択する。</p>
	英米文学専攻 (修士課程)	<p>英米文学専攻では、英米の文学・文化・言語をより深く研究し、高い専門性が求められる職業を担うとともに、広く社会に知的貢献のできる人材の育成を教育目的とする。この目的を達成するために、各自の専攻領域における専門的知識を深め、課題を発見し主体的に解決する実践的能力を養う。さらに、高い英語運用能力と、客観的分析や考察に基づく論理的な表現力を身につけることを目指す。</p> <p>1年次から専門教員の個人的指導のもとで各自の研究を開始することになるが、それと同時に、専門領域以外のさまざまな分野にも積極的に取り組むことが強く求められる。これは、本専攻の修了者が、専門の知識だけでなく、幅広い教養を備えた、一般社会にとっても有用な人材に成長することを切望するからである。また本専攻で学ぶ者には、修了後、英語教員になることを目指す者が少なくない。本専攻は、そのような進路希望にも対応するカリキュラム上の配慮を行っている。</p>
	社会学専攻 (修士課程)	<p>社会学専攻は、当該分野の専門的職業人や研究者として長きにわたって活動しうる専門的な知識およびスキルを修得する大学院として、学部で学んだ社会学および社会福祉学を学生がさらに深め、高度に研究することを目指してい</p>

		<p>る。同時に、社会福祉分野の社会人向け大学院としても、十分な機能を果たすことを目指している。</p> <p>学生が研究できる分野は、各教員の専門分野とその周辺分野として、「社会学史」「公共哲学」「教育社会学」「地域社会学」「家族社会学」「社会福祉学」などであり、優れた当該成果により修了者は、専門的研究者だけでなく、また職業人としても、有為な人材に育つことが期待される。</p>
	臨床心理学専攻 (修士課程)	<p>臨床心理学専攻は、学部における心理学的教養の上に臨床心理学に関する学識を身につけ、高度な専門的研究ならびに実践の能力を養うことを目的としている。具体的には臨床心理士の養成を目指して、(公財)日本臨床心理士資格認定協会の基準を参照し、カリキュラムを編成した。実習を通して心理臨床の実務など実践的な能力を身につけることを中軸に、心理学研究の方法論を学ぶほか、基礎心理学の各領域にわたる科目をバランスよく整備し、基本的な心理学的素養の育成をはかるよう内容の充実に努めている。</p> <p>このような教育体制によって、人間理解の広い視野と確実な学識に裏付けられた実践能力の高い心理臨床の専門家を養成することを目的としている。</p>
	日本文学専攻 (博士課程)	<p>修士課程における学修と研究の基盤の上に、より専門性を高めることを目的とする。科目を「特講」「特殊演習」の二種に大別し、この科目名のもとに、修士課程よりも高度な古代文学、中世文学、近代文学、和歌文学、日本語学、漢文学の講義と演習を配置する。教授者は専任の教授者の他に、学外からも専門性に優れた教授を招き、講義内容の充実に努める。</p> <p>博士課程の学生には、博士論文の作成のために、研究テーマを明確に定め、研究方法を確立することが求められる。</p>

別表第2 大学院教育課程表

(1) 理工学研究科

専攻	課程	修 士 課 程				備 考
		授 業 科 目	単 位 数			
			必 修	選 択	自 由	
物質理学専攻	物質理学特別研究Ⅰ	6			論文指導は特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行なう。 有機化学特論、生化学特論、化学計測学特論及び物理工学専攻の電子物理学特論、数理工学特論、力学特論のうち2科目を必ず選択すること。	
	物質理学特別研究Ⅱ	6				
	物質理学研究講読Ⅰ	2				
	物質理学研究講読Ⅱ	2				
	物理化学特論		2			
	生体機能特論		2			
	生体物質特論		2			
	物質構造特論		2			
	地球環境科学特論		2			
	凝縮系物理特論		2			
	物質理学特別講義		2			
	生命科学特論Ⅰ		2			
	生命科学特論Ⅱ		2			
	天然物化学特論		2			
行動生理学特論		2				

	有機化学特論		2		
	生化学特論		2		
	化学計測学特論		2		
	構造生物学特論		2		
	計	16	30		

専攻	課程	修 士 課 程				備 考
		授 業 科 目	単 位 数			
			必 修	選 択	自 由	
物理工学専攻	物理工学特別研究Ⅰ	6			論文指導は特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行なう。 電子物理学特論、数理工学特論、力学特論及び物質理学専攻の有機化学特論、生化学特論、化学計測学特論、生化学特論のうち2科目を必ず選択すること。	
	物理工学特別研究Ⅱ	6				
	物理工学研究講読Ⅰ	2				
	物理工学研究講読Ⅱ	2				
	量子工学特論		2			
	電子物理学特論		2			
	機能薄膜特論		2			
	電子材料工学特論		2			
	情報理論特論		2			
	材料強度特論		2			
	振動工学特論		2			
	エネルギー工学特論		2			
	統計システム特論		2			
	CAD/CAE/CAM特論		2			
	通信工学特論		2			
物理工学特別講義		2				
力学特論		2				
数理工学特論		2				
	計	16	28			

専攻	課程	博 士 課 程				備 考
		授 業 科 目	単 位 数			
			必 修	選 択	自 由	
物質工学専攻	物質工学特別講読Ⅰ	2			※特別講読・特別研究とも、Ⅰを履修した上でⅡを履修すること。 ※修得すべき単位は16単位以上で、かつ指導教員による研究指導を必ず受けること。	
	物質工学特別講読Ⅱ	2				
	物質工学特別研究Ⅰ	6				
	物質工学特別研究Ⅱ	6				
	計	16				

(2) 人文学研究科

専攻	課程 授業科目	修 士 課 程			備 考
		単 位 数			
		必 修	選 択	自 由	
日本文学専攻	日本文学特殊講義Ⅰ		4		論文指導は 日本文学演 習Ⅱ、Ⅳ、 Ⅵ、Ⅷ及び日 本語学演習 Ⅱで行う。
	日本文学特殊講義Ⅱ		4		
	日本文学特殊講義Ⅲ		4		
	日本文学特殊講義Ⅳ		4		
	日本語学特殊講義Ⅰ		4		
	日本語学特殊講義Ⅱ		4		
	漢文学特殊講義		4		
	日本文学特殊研究Ⅰ		4		
	日本文学特殊研究Ⅱ		4		
	日本文学特殊研究Ⅲ		4		
	日本文学特殊研究Ⅳ		4		
	日本文学特殊研究Ⅴ		4		
	日本語学特殊研究Ⅰ		4		
	日本語学特殊研究Ⅱ		4		
	日本文学演習Ⅰ		2		
	日本文学演習Ⅱ		2		
	日本文学演習Ⅲ		2		
	日本文学演習Ⅳ		2		
	日本文学演習Ⅴ		2		
	日本文学演習Ⅵ		2		
	日本文学演習Ⅶ		2		
日本文学演習Ⅷ		2			
日本語学演習Ⅰ		2			
日本語学演習Ⅱ		2			
計			76		

専攻	課程 授業科目	修 士 課 程			備 考
		単 位 数			
		必 修	選 択	自 由	
英米文学専攻	英米文学特殊講義Ⅰ		4		論文指導は 演習科目で 行う。
	英米文学特殊講義Ⅱ		4		
	英米文学特殊講義Ⅲ		4		
	英米文学特殊研究Ⅰ		4		
	英米文学特殊研究Ⅱ		4		
	英米文学特殊研究Ⅲ		4		
	英米文学演習Ⅰ		2		
	英米文学演習Ⅱ		2		
	英語学特殊講義		4		
	英語学特殊研究		4		
	英語学演習Ⅰ		2		
	英語学演習Ⅱ		2		
	英米文化演習Ⅰ		2		
	英米文化演習Ⅱ		2		
	応用言語学特殊講義		4		
	応用言語学特殊研究		4		

	応用言語学演習Ⅰ		2		
	応用言語学演習Ⅱ		2		
	古典文学特殊講義		4		
	英米文化特殊講義		4		
	英米文化特殊研究		4		
	英語教育学特殊講義		4		
	計		72		

課程 専攻	授業科目	修 士 課 程			備 考
		単 位 数			
		必 修	選 択	自 由	
社会学専攻	社会学特殊講義		4		論文指導は演習科目で行う。
	公共哲学特殊講義		4		
	社会学史特殊講義		4		
	地域社会学特殊講義		4		
	教育社会学特殊講義		4		
	文化人類学特殊講義		4		
	社会福祉学特殊講義		4		
	精神保健福祉特殊講義		4		
	家族社会学特殊講義		4		
	社会学特殊研究		4		
	公共哲学特殊研究		4		
	社会学史特殊研究		4		
	地域社会学特殊研究		4		
	教育社会学特殊研究		4		
	文化人類学特殊研究		4		
	社会福祉学特殊研究		4		
	精神保健福祉特殊研究		4		
	家族社会学特殊研究		4		
	社会学特殊演習Ⅰ	2			
社会学特殊演習Ⅱ	2				
計	4	72			

課程 専攻	授業科目	修 士 課 程			備 考
		単 位 数			
		必 修	選 択	自 由	
臨床心理学専攻	臨床心理学特論	4			指導教員による論文指導は、特に授業時間を設けずに行う。
	臨床心理面接特論	4			
	臨床心理査定演習	4			
	臨床心理基礎実習	4			
	臨床心理実習	4			
	臨床心理学研究法特論		2		
	臨床心理学関連行政論		2		
	学校臨床心理学特論		2		
	心理学統計法特論		2		
	人格心理学特論		2		
	発達心理学特論Ⅰ		2		
	発達心理学特論Ⅱ		2		

家族心理学特論	2		
犯罪心理学特論	2		
臨床精神病理学特論	2		
障害者(児)心理学特論	2		
投映法特論	2		
心理療法特論	2		
臨床睡眠学特論	2		
リハビリテーション	2		
心理学特論	2		
臨床動作法特論	2		
心理学特殊研究	2		
臨床心理学特殊研究	4		
表現療法特論	2		
計	20	40	

専攻	課程	博士課程			備考	
		授業科目	単位数			
			必修	選択		自由
	日本文学特講Ⅰ (古典文学)		4		※選択科目から8単位以上修得すること。 ※必修科目においては、研究指導教員の科目を順次履修し、6単位修得すること。 ※修得すべき単位は14単位(特講8単位、演習6単位)以上で、かつ指導教員による研究指導を必ず受けること。	
	日本文学特講Ⅱ (古典文学)		4			
	日本文学特講Ⅲ (近代文学)		4			
	日本文学特講Ⅳ (近代文学)		4			
	日本語学特講Ⅰ (日本語学)		4			
	日本語学特講Ⅱ (日本語学)		4			
	漢文学特講 (漢文学)		4			
	日本文学特殊演習Ⅰ	2				
	日本文学特殊演習Ⅱ	2				
	日本文学特殊演習Ⅲ	2				
	計	6	28			

別表第3 学費

修士課程

入 学 金	(理工学研究科)	280,000円
	(人文学研究科)	250,000円

ただし、学校法人明星学苑、学校法人いわき明星大学が設置する大学からの進学者に関しては、入学金を免除する。

(単位：円)

研究科	理工学研究科		人文学研究科	
	修士課程		修士課程	
年次	1年次	2年次	1年次	2年次
授業料	350,000	350,000	290,000	290,000
施設拡充費	130,000	130,000	100,000	100,000
合計	480,000	480,000	390,000	390,000

博士課程

入学金	(理工学研究科)	280,000円
	(人文学研究科)	250,000円

ただし、学校法人明星学苑、学校法人いわき明星大学が設置する大学院からの進学者に関しては、入学金を免除する。

(単位：円)

研究科	理工学研究科			人文学研究科		
	博士課程			博士課程		
年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
授業料	350,000	350,000	350,000	290,000	290,000	290,000
施設拡充費	130,000	130,000	130,000	100,000	100,000	100,000
合計	480,000	480,000	480,000	390,000	390,000	390,000

在籍料（休学者） 25,000円

博士論文審査料等

イ 本学大学院博士課程を経た者 50,000円

ロ 本学大学院博士課程を経ない者 250,000円

学位論文指導料 150,000円

聴講生・科目等履修生・研究生

聴講生	登録料	10,000円
	聴講料	1単位につき 6,250円
科目等履修生	登録料	10,000円
	聴講料	1単位につき 10,000円 * 本学卒業生は上記の半額
研究生	研究指導料	理工学研究科 200,000円
		人文学研究科 150,000円